

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800032		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	グループホームくばの里ハウス		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196-147		
自己評価作成日	平成30年12月23日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijyosyoCd=4791800032-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金武町の町木が名前の由来になっており、同法人のデイサービスやグループホームなどと協力しあい、地域に愛され、根差した事業所を目指し、家庭的な雰囲気を入居者の方々が明るく楽しく笑顔で過ごせるよう、若い職員が入居者一人一人に柔軟に対応し、支援を行っています。今年はカジマヤーを迎えられた入居者の方が、くばの里ハウスに2名、同法人内では計5名おり、法人主体で近隣住民や婦人会、役場の方々の協力もあり、盛大なカジマヤーパレードを行うことが出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地内には、デイサービスが併設しており、地域から通う住民と利用者は、毎週情報交換等を行っている。デイサービスでは、婦人会員による琉球舞踊の披露や三線を弾く地域のボランティアの方等音楽会が行われている。利用者の成年祝いのパレードに町役場の職員の協力を得て、地域住民も参加している。日頃からふれあいを大切にし、交流を行い連携を図っている。福祉専門学校と連携し、場所を提供する事で地域の方が資格を取得し就職出来る環境を整えている。キッチン是对面式になっていて、職員が交替で行っている。利用者とその日食べたい食事を、話し合いながらメニューを決め、3食を手作りし利用者職員全員と一緒に食事をテレビを、見ながら会話をしている。利用者のリクエストで、沖縄そばやお刺身等好きなものを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取り入れた分かりやすい表現での理念を毎朝の申し送り時に唱和している。	理念については、利用者と職員が、住み慣れた地域に愛され皆が笑顔等をモットーにを、3年前の管理者の就任時に職員全員で作成している。今年度も継続する事とし、毎朝唱和している。申し送り時に理念がケアに反映されているか確認し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の散歩時に挨拶を交わしたり、近隣の方に、夜間は駐車場を開放している。金武町の台風や災害時の高齢者緊急受入れ先に登録している。保育園や婦人会、教会からの慰問や、面会がてら三線をひきに来てくれる方たちがいる。	事業所と地域とのつきあいについては、台風等災害時の緊急受け入れ先として行政に登録し、地域の高齢者の受入れ体制を整えている。地域のボランティアや婦人会のメンバーが歌や踊りを披露するなどで訪問している。近隣の保育園児がクリスマスやハロウィンで訪れ、利用者と触れ合い元気を与えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が主体となり、金武町役場や婦人会の協力があり、敬老会やカジマヤーパレードを盛大に行うことができた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回、偶数月に開催し、行政機関、地域の方、家族の参加を促し、多方面からの意見をいただいている。会議録を玄関に置いて随時閲覧できるようにしている。	運営推進会議は、利用者・家族・老人会長・民生委員・行政又は地域包括職員が参加し系列のグループホームと合同で年6回開催している。会議では写真入りのグループホームだよりで、活動状況や事故報告等を行い、地域の情報や意見交換を行っている。議事録や外部評価結果等は、各委員へ配布すると共に玄関先にファイルし公表している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や行事などで市町村担当の方に来所して頂いたり、地域ケア会議や多職種研修に参加し、交流や情報交換等行っている。	市町村との連携については、行政担当者とは、運営推進会議やお茶会、ケア会議や研修会等で情報交換し、日頃より連携を図っている。町職員の協力を得て成年祝い(かじまやー)のパレードに、利用者2名がオープンカーに乗り町役場から出発し地域の方に迎えられ式が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を作成し、3ヶ月に1度、会議を開き、状況報告や身体拘束についての勉強会を開いている。	身体拘束をしないケアの方針の下、契約書にリスクについて家族へ説明をし、拘束のないケアを実践している。職員が委員となり、3か月に1回法人全体で行われる身体拘束等の適正化についての委員会に参加している。マニュアルを整備し会議を行い職員へ周知するとともに、記録に残し勉強会も行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などへの参加や、どんな行為が虐待に当たるのか、虐待について職員同士の指摘や、話し合いなど行っている	高齢者虐待防止に関するマニュアルを作成し、勉強会を行っている。外部研修に参加した職員が、報告会を実施し職員間で情報を共有している。管理者は職員の利用者に対する声の大きさやトーンが気になる場合には、その場で注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症のひどい方や、家族が管理しているため、それらを必要とする機会や前例が無く勉強不足である。また勉強不足の為、こういったケースで必要なのかもきちんと理解できていない。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時や契約時に本人や家族に説明を行い、署名捺印をもらっている。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付書と回収箱を置いてはあるが、面会時や病院受診時に直接管理者や職員に言うてもらうことが多い。利用者からの要望は日々の支援の中で聴き、柔軟に対応している。	日々の会話の中で利用者から要望を聞き、家族とは面会時や運営推進会議の中で、意見を聞く機会を設けている。家族から利用者の尿取りパッドの種類等について質問があり、夜間用や褥瘡予防の為の使用量等について説明し、一括購入により家族の負担が少なくなる様工夫している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に職員に改善や提案事項がないか確認し、毎月1回職員会議を開き、意見をもとに検討している。早急に解決したい事案や報告がある場合、グループラインを利用して情報の共有をはかっている。	管理者は、職員から直接要望を聞き、利用者の食事形態に対応できるフードプロセッサーや足浴用の入浴剤の購入が行われている。利用者と職員と一緒に日光浴等が出来る東屋が欲しいとの要望を受け現在建設中である。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休み希望は出来るだけ受入れ、有給も使うよう声かけしている。代表者は頻りに施設を訪れ、職員をねぎらったり、アドバイスをしている。職員を増員するためハローワークや知り合い等に声掛けし探すのがなかなか応募がない。	法人が作成した就業規則が整備され、資格取得や資格手当等の支援がある。法人代表者と職員は直接面談をする機会がある。職員用の休憩室はベッドがあり、交代で30分の休憩を取っている。福祉専門校に場所を提供し人材育成に努めている。職員の健康診断を、年1回(夜勤者は年2回)実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	外部への研修参加の促しや、施設に講師を呼び、研修を行ったりし、職員の質が上がるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームの職員と合同で内外の研修に参加し、情報交換や交流はしているが、法人外の人との交流は難しい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様や家族の方に話を聞き、情報をもらいながら本人様の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、安心して入居出来る様に支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面談を行い、グループホームの事を説明したり、家族からの要望や困りごとを丁寧に聴き、信頼関係が構築できるようにしている		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、困っていることを伺い、本人、家族の出来る事、出来ないことを把握し、サービスに繋がられるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、調理の下ごしらえ(もやしのひげ取りなど)洗濯たたみ等を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族の関係づくりのため、面会時などに情報交換を行っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内のデイサービスやグループホームに行き、友人や親せきの方に会い交流している。お盆や正月、お祝い等で自宅に戻る際もリフト車を提供したり、自宅まで送迎し、家族や地域との関係が途切れない様支援している	利用者は、幼馴染みや友人に会いに、同じ敷地内にある系列のデイサービスに出かけ、毎週行われる音楽会に、ほぼ全員が参加し、情報交換等を行っている。家族や友人と、教会や外食へ出掛ける支度や調整等関係継続の支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の座席を配慮したり、職員の声かけ等での明るい雰囲気作りに気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し入院している利用者を見舞いに行き、状況確認をしたり、家族が困っていないか電話連絡を取ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの利用者が意思疎通が可能で、日々の生活の中での会話等で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、表情等で利用者の思い等を推し図り、職員間で話し合っている。	利用者の思いや意向は、アセスメントシートや家族等から、情報を把握し確認している。利用者とは日常生活の中で、傾聴やしぐさ等から思いの把握に努め職員間で情報を共有している。旧盆や正月に帰宅を希望する利用者には、家族と調整し、半数の利用者が一時帰宅できるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話から読み取ったり、面会に来た友人や家族の方から情報収集したりしている		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態の変化などで、本人の有する力などを申し送りなどで情報を共有し、支援している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、入居者の状態変化があった時にはその都度話し合いを行っている。申し送り等で情報を共有し、対策検討を行い介護計画に反映している。	サービス担当者会議には、利用者と家族や担当職員看護師等が参加している。入浴時は石鹸の流し忘れがあり、見守りだけでなく、声かけが必要との担当職員からの意見を受けて、介護計画の変更を行っているが、計画の見直しが更新時のみとなっている。	介護計画は、利用者や家族の思いや意見を反映させてカンファレンスやモニタリングを行い、現状に即した随時の見直しも望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や、介護日誌に記入し、勤務引継ぎ時の申し送りにて情報の共有をはかっている。グループラインも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に入居者の状況を報告し、必要な支援を行っている。病院受診や家族との外出の予定など。必要に応じ、家族とのランチ外出の送迎や病院への面会など。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや近隣の保育園児の訪問交流を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際同行し、主治医へ情報提供を行ったり、同行できない場合は、電話にて経過報告や状況報告を行い、適切な健康管理が行えるよう支援している。	利用者は全員かかりつけ医を受診し、かつ必要な時には採血などの検査も受けている。病院受診は、基本的には家族が対応することになっているが、家族の都合がつかない場合には職員が病院に同行し、受診後の情報は、電話連絡または家族の来所時に直接伝えている。利用者のうち4人は訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を、看護師の訪問日に情報提供を行い、訪問日以外の日には電話で指示を得ている。必要時は訪問日以外でも来てくれる契約をしているが、まだ利用には至っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時可能な限り同行し、情報提供を行い、入院中は入退院管理室の相談員や家族と密に連絡を取り合っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携や重度化した場合の事について確認してはいるが、体調変化時などにも連絡を入れ、家族に確認している。	利用開始時に「看取りケアの指針」「重篤化した場合の対応にかかる指針」について説明を行い、救急搬送の際の本人や家族の希望を確認している。利用者の状態が悪化した時に、説明が必要と思われる利用者及び利用者家族に対して、それぞれの指針について再度文書で説明をし、意思確認と署名捺印をして提出されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルなどを整備し、対応時の流れを見やすい場所に掲示している。	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定避難訓練を行い、金武町主催の、地震、津波避難訓練にも毎年参加している。法人と同じ日に避難訓練を実施し、事業所単位で時間差で訓練を行い、助けの声が聞こえた時点で避難に協力するルールで行っている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を行い、飲料水・缶詰・冷凍食品等の食糧を三日分程度備蓄している。オール電化の厨房のため停電時に備えて、カセットコンロ等を準備している。管理者が、近隣住民宅を直接訪ねて、避難訓練への協力を依頼し、「在宅中なら協力できる」旨の承諾を得られたものの、実際の訓練時の協力は得られなかった。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各トイレの前にプライバシー保護マニュアルを張り出しプライバシーを守れるよう意識づけしている。自尊心を傷つけないように本人が納得するまで話をしたが、言いなりになるのではなく、体調や生活のリズムは整えるようにしている。言葉かけもきつならない様、尊厳を守った話し方を心掛けている。	管理者は、「丁寧すぎる言葉にかえって萎縮する利用者への適切な言葉かけ」や「馴れ馴れしくならないような言葉かけ」等について職員に考えてもらうために、「私たちは利用者の皆さんの『支援をさせてもらっている』のよ」と日々のケアの中で投げかけ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。	
----	------	--	---	---	--

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し説明を行いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、個別支援が出来る様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴の際の衣服は、本人に確認している。外出時は職員が寒暖をアドバイスし、本人の好みで装うよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望や嗜好を把握し、献立に活かせるようにしている。	食事は三食とも事業所の厨房で調理し、利用者の希望があった時や、食材の差し入れがあった時などメニューを変更して柔軟に対応することができる。宗教上の理由で食べられない食材や利用者の嗜好には、食材を変える特別メニューで応えている。ホテルでのバイキングに出かけたり、刺身・ていびち・沖縄そば・寿司などを提供したりして利用者が食事を楽しめる支援を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をもとに入居者の好みやイベントに合わせ調理している。摂取状況を把握し、摂取量の少ない入居者には補食を行っている。水分は1日1,000~1,500mlを目指し、取りやすいようお茶ゼリーやポカリスウェットゼリーなども使い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、義歯は利用者本人が洗浄後、磨き残し等を職員が洗浄する。義歯の無い方にも口腔ケアを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを確認し、トイレを促すことにより、布パンツ対応やパットの使用軽減に繋げている。	「排泄したい時に排泄をすること」を排泄の自立支援ととらえ、排泄記録を常に確認し、さりげないトイレへの声かけを実施している。立ち上がりの回数が増える時に、排便のサインであることを職員が気づき、声かけすることで、排泄の成功に結びついた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分や食事に対応するようにしている。水分量の少ない方には黒糖ゼリーやポカリスウェットゼリーを用意し、水分補給をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日を決めているが、一人一人の希望に合わせ支援している。	入浴を楽しむことができる支援として、女性利用者の同性介助は実施し、男性利用者へ異性介助の際には同意を得ている。家族からの希望でT字カミソリで髭を剃ったあと入浴したり、好みのシャンプーで洗髪したり等、利用開始前からの習慣を維持している利用者がいる。入浴後の着替えを自分で準備したり、職員やボランティアが施してくれるマニキュアを楽しんだりしている利用者がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時や就寝時間を特に定めず、テレビを見たり、雑談したり、一人一人に応じている。安眠出来る様に温室の調整をしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握しやすいよう、薬の近くに服薬情報を綴ったり、薬の変更があった時には記録に書き、申し送りにて報告している。	利用者の服薬後の活動の低下が気になった職員が、「薬の副作用ではないか」と受診の際に投げかけ、医療機関を他科の専門医へ変更し、診察を受けたところ、投薬内容が変更され、利用者の状態が落ちついた事例がある。投薬のセットと与薬に関する申し合わせは口頭で行い、服薬に関する事故報告等はなかったものの、服薬支援マニュアルを確認することができなかった。	利用者一人ひとりの安全な服薬を保證するための「服薬支援マニュアル」の整備が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地元の小学校の校歌や童謡を歌ったり、軽作業(洗濯たたみ)、散歩、ドライブ等で気分転換になるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、隣接するデイサービスやグループホームの友人や親せきとの交流、家族との外出などの支援を行っている。	利用者の体調にあわせて、町立図書館の「慰霊の日特設展示」を見学、「雨の日のマクドナルド食事会」等を実施している。また、視覚に障害のある利用者が、陽射しのぬくもりで光を感じることができるよう快晴の日に近所を散歩したり、クリスチャンの利用者が家族や友人の協力で礼拝に参加したり、信心深い利用者が月に2回自宅に線香をあげに帰宅したり等、一人ひとりのニーズに合わせた支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理するのは難しく、家族に連絡し、外出する時などに持ってきてもらい、お金を所持し使えるようにしたり、施設で立て替えし、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りが出来る人はいないが、電話をかけた時、ご家族や友人からかかってきた時は、随時話ができる様に支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに合わせた飾りなどし、湿度計、温度計を置き、空調などの調整を行い、採光、テレビの音量調節にも配慮している。	利用者は段差のない和室で畳の感触を楽しんだり、対面式のキッチンでつくられている食事の香りを感じたりすることができる。上下左右の感覚に不安のある視覚障害の利用者は手で触れることで自分の位置がきちんと確認できる食堂テーブルがお気に入りの場所で、卓上のうちわと孫の手で安心感を確保している。高窓や上下に開閉できるドアは通風に優れ、風通しのよい共有空間になっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 2月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、玄関などにソファや椅子などを設置し、入居者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、自宅のように過ごせるよう、使い慣れたものや家族の写真を居室に置き、ゆっくり過ごせるようにしている。	ベッドや洗面台の備え付けられた室内には、家族写真・テレビ・冷蔵庫・聖書・お気に入りの寝具等思い思いの品物が持ち込まれている。ドアにあるすりガラスの灯りとりには利用者の希望をかなえる工夫のされたカーテンが設置されている。廊下からの明かりが心持ち明るい方が安心できる利用者のカーテンは薄手のレース生地、真っ暗でないと眠れない利用者には薄手だが遮光性に優れた綿素材のカーテンであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置し、入居者が移動しやすく、立ち上がり運動なども出来る様にしている。トイレや浴室など車椅子や歩行器でも出入りできるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム くばの里ハウス

作成日 : 平成 31 年 3 月 4 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	投薬のセットと与薬に関する申し合わせを口頭のみで行っていた。	服薬支援マニュアル作成し、職員全員が把握できるようにする。	利用者一人ひとりに安全な服薬を保証するための服薬支援マニュアルを作成し、職員に配布し、更にいつでも閲覧出来る様にマニュアルを薬箱の近くに置く。	1ヶ月
2	26	介護計画の見直しが更新時のみになっている。	状況の変化に合わせ、介護計画の見直しを行う。	利用者の状況や変化に応じ、モニタリングやカンファレンスを行い、現状に即した随時の介護計画の見直しを行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。